



第3回バイオバンク
フォーラム「バイオバンク
と参加」

小川 ゆみ

“バイオバンクと参加” ～一般住民の立場から～

妊産婦・子育て世代の震災時の
困難な状況、それからの取り組み

一般社団法人マザー・ウイング理事 小川 ゆみ
仙台市子育てふれあいプラザのびすく泉中央副館長



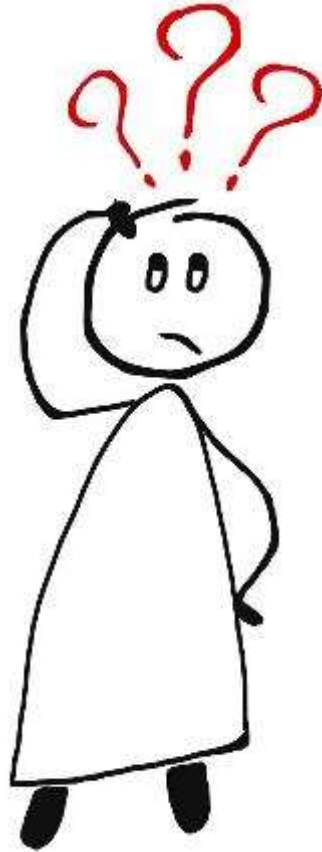
平成27年3月14日
施: TKPガーデンシティ仙台

- 東北大学東北メディカル・メガバンク機構倫理委員会へ参加するきっかけ
- 地域住民型コホート
→震災を経験した市民が、検診などの身近な場から研究への参加することを知って…



倫理委員会での学び

役割：一般
の視点で率
直に意見を
述べること



視点：協力者
は研究に参加
していること
をどこまで理
解している？

倫理委員会ではすべての
人の発言が尊重される！



莫大なデータの掛け算？



子どもたちの最善の利益と
参加によるメリット・デメリット



「これからの生活」へ、
予測に基づいた研究への
参加



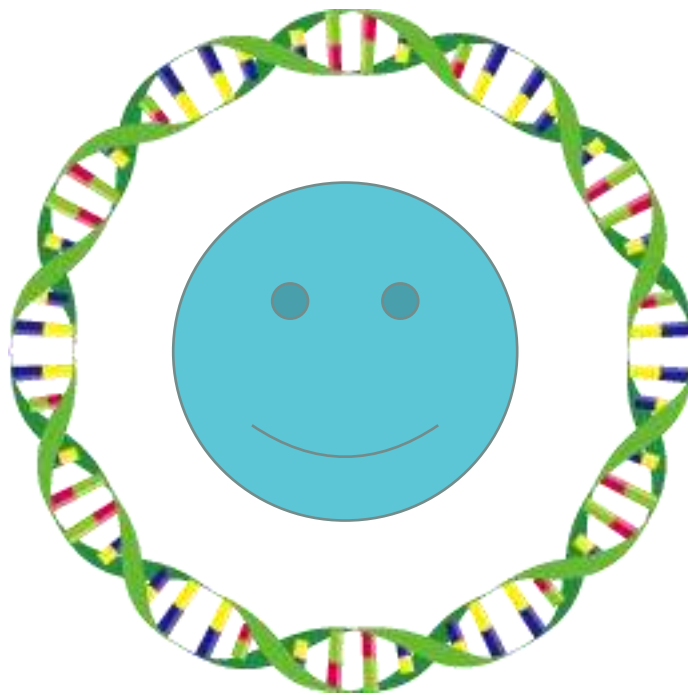
世代間の遺伝や
身近な生活課題



バイオバンクへ期待すること

☆多何のための調査なのか？

☆多将来的にどのようなことが期待されるのか？



データを提供した人の未来を守り

データを最大限に生かした予防を期待します。

[この写真](#)の作成者 不明な作成者は [CC BY](#) のライセンスを許諾されています

